

No.29-23 平成 30 年 3 月 27 日	<h1>漁況情報・浜の話題</h1>	神奈川県水産技術センター 企画資源部 046-882-2489 相模湾試験場 0465-23-8531
------------------------------	--------------------	---

●浜の話題

- 茅ヶ崎市漁協、地元料理店や加工業者、茅ヶ崎市、普及指導員で構成される「茅ヶ崎地魚倶楽部」では、茅ヶ崎で獲れたサメを使ったメニューの試作に取り組んでいます。2月22日には、同漁協木村組合長と地曳網漁業者カネサ丸さんの計らいで、活けみ・血抜き処理を施したカスザメが提供され、同倶楽部の料理店「なんどき牧場」さんが、「商工会議所サービス業部会ふれあい懇談会」の場で、薄造りのお刺身と湯びきして酢味噌で頂くメニューを提供し、とても好評だったそうです。



地曳網漁で漁獲されたカスザメ

カスザメの薄造り

- 3月1日から2日、藤沢市漁協の堀川網 葉山博史さんは東京の半蔵門グランドアークで開催された「第23回全国青年・女性漁業者交流大会」で「新名産「湘南はまぐり」—資源復活—ブランド化の歩み」について発表しました。種苗放流や資源管理を通じたハマグリ資源の復活とブランド化を通じた新たな名産品化について発表し、農林漁業中央金庫理事長賞を授賞しました。



全国青年・女性漁業者交流大会での活動発表の様子

- 3月6日、神奈川県の農業技術センター、畜産技術センター、自然環境保全センター及び水産技術センターは、研究成果を県民の皆様にとって頂くことを目的として、神奈川県民センターで神奈川県農林水産系研究成果発表会を開催しました。会場では、各センターからの研究発表と並行して、農林水産普及関係のパネル展示も行いました。また、各センターから試食が提供され、水産技術センターのマグロのコンフィは大好評でした。
- 藤沢市漁協の貝桁びき網漁では、ハマグリが150kg/日と盛漁になっております。かながわブランドを取得してから湘南はまぐりの需要は3倍近く増えました。3月7日は鎌倉パークホ

テルのフレンチシェフから引合いがありました。14日には横浜丸魚からも引き合いがあり、15から16日にかけて都築阪急で開催された「春のグルメフェア」で販売したそうです。藤沢の浜は旬のハマグリで大いに盛り上がっております。

- 3月7日、しらす協議会は鎌倉漁協で漁期前研修会を開催しました。当日は会員22名、関係機関2名の計24名が参加し、水産技術センター舩木主任研究員より「春しらす漁の漁況予測」について説明がありました。説明後は同協議会がかながわブランド販売促進支援事業を活用して作成した「湘南しらすを100倍楽しむレシピ」と生しらすPRのぼりを頒布しました。



湘南しらす生しらすPRのぼり

- 3月7日、かながわブランド振興協議会はかながわブランドモニター20名を対象として「かながわブランドモニター交流会」をワークピア横浜で開催しました。当日は、藤沢市漁協所属 堀川網 葉山博史さんが湘南はまぐりのこだわりについて説明し、昼食では「湘南はまぐりのペルシャード」（蒸しはまぐりに香草バターをのせ焼き目を付けたもの）を提供し参加者一同に味わってもらったそうです。モニターは、「湘南はまぐりは肉厚でとてもおいしい! こんな大きなハマグリは食べたことがない」といった感想があったそうです。



葉山博史さんが湘南はまぐりの
こだわりについて説明



当日提供された「湘南はまぐりのペ
ルシャード」

- 3月7日、アカモク製品化に意欲を示す湘南地区の漁業者がアカモク増殖部会を立ち上げました。同部会は江の島片瀬、茅ヶ崎、平塚、大磯の漁業者で構成され、3月下旬にアカモク母海藻を繁殖させたい海域に設置して、翌年以降の繁殖を試みるアカモク増殖試験を実施する予定です。昨年、柴で実施した同様の試験ではアカモクが繁殖していない海域に母海藻を設置する

ことでアカモクの繁殖が見られたので、漁業者は本試験に期待を寄せています。

- 3月7日、城ヶ島漁協はサザエ種苗 8,000 個、アワビ種苗 66,700 個を放流しました。今回は試験的に種苗の一部をダイバーが海中で放流しました。漁業者は、これらが順調に成長し漁獲されることを期待しています。



放流されたアワビ種苗

- 3月8日、西湘海域の定置網でカタクチイワシ・マイワシが計 30 トン漁獲され、特に岩漁場ではカタクチイワシ主体に 15 トン、小田原米神漁場で 8 トンの水揚げがありました。このイワシの大漁が呼び水となり、これから盛期となるブリ・マアジの漁獲に期待したいところです。
- 3月9日、平成 29 年第 2 回相模湾定置網漁海況予測説明会を神奈川県定置網漁業研究会と共同で開催しました。説明会では「平成 29 年下半期の経過と平成 30 年上半期の見通し」、「相模湾西湘海域の春ブリの来遊予測」及び「サバ類の資源状況と標識放流調査からみえてきた神奈川県沿岸における移動・回遊」を試験場職員が説明しました。当日は漁業関係者や水産行政関係者など 19 名が来場しました。



漁海況説明会場の様子

- 3月10日、大磯港みなとまちづくり協議会は大磯の海と魚をテーマとした講演会を開催しました。当日は、大磯二宮漁協加藤組合長が「瀬の海」という好漁場がある大磯の海の特徴と、定置網で獲れる地魚等について説明しました。
- 3月11日、江の島片瀬漁港で「みなと春まつり」が開催されました。当日は、江の島片瀬漁協が定置網の朝どれのアジ、サバやヤリイカ、サザエの壺焼等が直売され、藤沢市漁協はかながわブランドの「湘南はまぐり」と、「湘南しらす」を使ったかき揚げ入りうどんを販売し、いずれも来場者に人気だったそうです。

- 3月13日、箱根町の河鹿荘で平成30年相模地区漁業協同組合連絡協議会の新春研修会が開催されました。当日は相模地区の漁業協同組合関係者や県行政、県漁連、栽培協会など計39名が出席しました。研修は県水産課から「漁協合併について」、相模湾試験場から「相模湾定置網漁獲と資源・黒潮大蛇行との関係について」、県漁連から「消費税権限税率について」、共済神奈川事務所から「漁業収入安定対策について」など計8題の話題提供が行われました。